

第1回タウンミーティング

平成28年1月17日(日)

墨田区区民活動推進部区民活動推進課

午前9時30分開会

司会 皆様おはようございます。日曜の朝早くからようこそお越しくださいました。

ただいまより、「すみだタウンミーティング」を開催いたします。私は、今日の司会進行を務めさせていただきますタウンミーティング企画運営委員の近藤と申します。どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

また、始める前に一つ、本日、ケーブルテレビや取材の方が何人かお越しです。ビデオ撮影やユーストリームによる動画配信を行っております。撮影した動画は、ホームページなどで紹介させていただくことがございますので、そのところは、あらかじめご承知おきください。

それでは、開会に先立ちまして、委員の品川から、本日の趣旨をご説明させていただきます。

品川 高いところから失礼いたします。

本日は、このように多くの方にお越しいただきありがとうございます。

本日のタウンミーティングは、墨田区で初めての開催となります区民と区長による対話の場です。この企画と運営は、地域で活動する人材育成を目的としたすみだガバナンスリーダー養成講座の修了生を中心に組織した企画運営委員会で行っています。この企画運営委員会ですが、このような区民と区の協働による区政の進展の場を実現するために、昨年11月から事前会議を行いまして多くの検討を重ねてまいりました。

そのような中で、今回はテーマを設けさせていただいております。チラシにも書かせていただいたんですが「住みたい・住み続けたいまち すみだ」です。ご来場いただきました方のお声を少しでも多くお聞きし、実りある会にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日、お越しいただきました山本区長にご挨拶をいただきたいと思っております。

山本区長どうぞ。(拍手)

区長 どうも皆さんおはようございます。今日は、墨田区、初めてのタウンミーティングということで、ガバナンスリーダー養成講座の卒業生の皆さんが、こうして実行委員会として開催の運びまでやっていただきました。そして、皆様にご案内をさせていただきましたところ、このように多くの皆さんにご参加をいただきまして本当にありがとうございます。今日は、私も、皆さんとの直接の会話を楽しみにしてまいりました。

私は、去年の4月から区長を務めさせていただいたわけですが、まず選挙公約として、区

民の皆さんの声をしっかり伺って、それを区政に反映していきたいということを申し上げて当選をさせていただきました。その後、今度は区政の運営方針として、民間感覚と区民目線による、今あるすみだの可能性をしっかりと追求して、それを掘り起こす、引き出す、そんな区政を展開したいということと、もう一つは、スピード感のある区民に開かれた区政の展開をしたいと、こういうふうな施政方針の中で申し上げながら約8カ月、区長として仕事をさせていただいております。

今日は、そういうことを繰り返していきながら、区民の皆さんの声がどれだけ区政に反映をし、そして、それが実現していくのかと、こういうことをずっと私の任期の間、追求をし、実践をしていきたいというふうに思っておりますので、今日のこの会ももちろんそうですけれども、これからも皆さんからのご意見を賜りたいということでございます。

墨田区は、私が言うのも変ですけども、これから大きく発展をしまいいります、間違いなく。そして、例えばですけども、就任して5月には、人口が26万人を突破いたしました。その中で、一つ特徴的なことは、20代、30代、40代の皆さんの人口に対する比率が46%ということございまして、約半分の方がそうした世代の皆さんであるということ。

それから、もう一つは、高齢化率とか、少子・高齢化社会とか言いますが、その高齢化という余りいい言葉ではないですけども、65歳以上の方が人口の中でどのくらいいるかというと22.7%ということございまして、いわゆる若い世代もこの墨田区に魅力を感じて住んでいただく、今日は、「住みたい・住み続けたいまち」というテーマで今日は皆さんとお話をさせていただくわけですが、さらには、高齢者の皆さんが生き生きとこのまちで暮らしていただきながら、本当にこのまちに住んでよかったと、このまちで老後を過ごしてよかったと、こう思ってもらえるまち、いろいろ世代はありますけれども、そういうまちづくりをやっていく上で基本となるのが皆さんの声だと、こういうことございまして、ぜひ、そういう意味も込めて、今日はいろいろなご意見を賜りたいというふうに思います。

最後になりますが、こうして手づくりで、実は23区で初めての試み、タウンミーティングという試みは初めてでございますし、私も、公約としてやりたいということで申し上げたところ、今日の実行委員の皆さんたちが区長室にわざわざおいでをいただいて、区長やるなら俺たちは手伝うよと、そんな中で初めてだからなかなか難しい色々なこともあるかもしれないけれどもとにかくやってみますということで、時間を使っただいてこの会の準備に当たって、この会場でリハーサルまでしていただいて、こうして、今日の開催にこぎつけました。その皆さんにも感謝を申し上げるとともに、そしてこの日曜日の朝早くからこのように

多くの皆さんに初めての試み、ご参加をいただきましたことにも感謝を申し上げて、何とか私も、皆さんと会話の中で、意義ある初めてのタウンミーティングにしたいというふうに思います。ご協力のほどをよろしくお願いします。ありがとうございました。(拍手)

司会 区長、ありがとうございました。

区長の意気込み伝わってまいりましたね。

では、次のコーナーに移りたいと思います。

では、藤方さん、よろしくお願いいたします。

藤方 おはようございます。企画委員の藤方と申します。

本日は、区長にお越しいだいておりますので緊張されている方もいるかと思いますが、私も、私が一番今緊張しているんです。これから声を出す場面も結構多くありますので、リラックスと脳トレも兼ねて、皆さんに区長と一緒に問題に挑戦していただきたいと思います。ぜひ積極的に、体を使ったり、声を出しますので、参加していただければと思います。

では、早速始めたいと思います。

まずは、すみだガバナンスリーダー養成講座卒業生でもある「すみだすみずみほりおこし隊」 - 略して「すみほり隊」と言うんですけれども、からの「すみだトリビアかるた」からの問題です。どのくらい墨田区を皆さんトリビアを知っていらっしゃるでしょうか。脳をぜひフル回転して、クイズのほうに答えていただければと思います。

まず1問目、鐘ヶ淵には、キツネの湯が本当にある。 か×か。鐘ヶ淵にはキツネの湯がある。本当にある、キツネですよ。 か、×か。

の方は手で を、×の方は手で×を挙げていただきたいと思います。区長さんもぜひ。キツネの湯があるかないか。

(挙手する者あり)

藤方 ×が若干多いですかね。

正解は×です。

鐘ヶ淵には、たぬきの湯があります。同じく鐘ヶ淵にある多聞寺には狸塚がありまして、皆さん御存じの本所七不思議にも狸囃子があります。墨田区には、タヌキにまつわるお話がたくさんあります。

ここで、トリビアかるたを一句、「たぬきの湯 ホントにあるよ 鐘ヶ淵」。言葉で発する場面結構これから出てきますので、皆さんぜひ声に出して一句言いたいと思います。はいの合図で、声を出して一斉に皆さん読み上げますよ。行きますよ。

(「たぬきの湯 ホントにあるよ 鐘ヶ淵」全員で復唱)

藤方 ぜひ覚えてください。私がちょっと緊張してすみません。かんでしまいました。

2問目に行きたいと思います。

次は、江東橋のガードレールはマッチ棒の形をしている。 か×か。

の人は手で を、×の人は手で×を挙げていただければと思います。

(挙手する者あり)

藤方 正解行きますよ。正解は です。

今、画像がありますけれども、江東橋のガードレールはマッチ棒の形をしています。これは、今の両国高校のある場所にあった会社が、日本で初めてマッチの製造をしたことによるものだそうです。両国高校には、国産マッチ発祥の地の碑があります。皆さん機会がありましたらぜひ見に行ってください。

では、ここでトリビアかるたを一句表示します。

「江東橋 ガードレールは マッチの形」、また、言葉で発すると皆さん覚えますので、はいの合図で行きたいと思います。行きますよ、はい。

(「江東橋 ガードレールは マッチの形」全員で復唱)

藤方 ぜひ覚えてくださいね。

次に、3問目に行きたいと思います。

3問目は、回向院にはオットセイのお墓がある。回向院にはオットセイのお墓がある。か×か。いかがでしょうか。手で合図していただいていいですか。わからない方は運です、勘です。

(挙手する者あり)

藤方 正解に行きます。正解は です。

回向院にはオットセイのお墓があります。スクリーンにありますけれども、漢字で書いてある、読みづらいですが書いてありますけれども。ほかにもいろいろな動物のお墓もあるようです。ぜひ一度足を運んでいただければなと思います。

では最後のトリビアのかるたを一句お願いします。「回向院 オットセイのお墓あり」、行きますよ、皆さん、声出しますと脳が活性化されますから、ぜひ大きな声を出していただきたいと思います。

(「回向院 オットセイのお墓あり」全員で復唱)

藤方 トリビアかるた結構おもしろい、へえということだけでも脳に刺激があって若返ると

思いますので、さらに若返っていただければなと思います。

次に、ちょっと趣向を変えまして、区長についての問題を出したいと思いますので、区長はちょっと答えを言わないで、顔にも出さないでいただければと思います。

4問目行きます。

区長の得意なスポーツは柔道である。 か×か。区長の得意なスポーツは柔道である。か×か。顔、表情を見ながら。

(挙手する者あり)

司会 ×の方にどんなスポーツかなって聞いてみますか。

どんなスポーツをやっているらっしゃると思います、×の方。

(「剣道」の声あり)

藤方 では、区長お答えいただきたいと思います。

区長 正解は剣道です。6歳から始めて、もう48年、きのうも稽古に行っていました。正解の方ありがとうございます。

藤方 ちなみに何段でいらっしゃる。

区長 一応教士7段でございます。(拍手)

藤方 皆さんは結構区長のことを知っているらっしゃるようで。

続きましても、区長についての問題を出したいと思います。

5問目行きます。

区長の血液型はB型である。 か×か。これはさすがに分かれますね。 の方と×の方。B型である。 か×か。

(挙手する者あり)

藤方 では。

区長 正解は×です。A型です。B型にも見られるしO型にもたまに見られますけれども、実はA型でございます。

藤方 A型の方、この会場でいらっしゃったら手を……多いですね。ちなみにB型の方いらっしゃいますか。はい、私と一緒にですね。マイペースでございます。

少しなごんでいただけましたでしょうか。

皆さん頭をフル活用していただいたところで、早速本日のテーマに移りたいと思います。

ありがとうございました。(拍手)

司会 ありがとうございました。

それでは、ここで発声練習も済んだところで、本日のテーマ、「住みたい・住み続けたいまち すみだ」について、本日お越しいただきました皆様方の声をお聞きしたいと思います。

チラシにも書いてございました。お一人の持ち時間30秒でございます。長いようで短い、短いようで長い30秒、これを使って、皆様の声をお聞きしたいと思います。

希望される方、私言いたいぞ、今日はという方、どうぞ手を挙げていただけますか。でも、だんだん聞いているうちに私も言いたいということが今日は絶対出てくると思いますけれども。では、その方たち、こちらへちょっと移動していただけますでしょうか。よろしく願いいたします。

(質問者、舞台下に移動)

司会 では、お話しされる方々をお願い事でございます。

まず最初に、お名前と、どちらからいらしたとか、どんなことについて30秒で述べたいですかというようなことを少しインタビューさせていただきます。それが終わりましたら、始めのベルが鳴ります。どんな音かと申しますと、「チーン」、この音が鳴ります。こうしますと時計が30秒刻みます。ゼロになりますとどういう音がしますか。「パフパフ」、この音で終わりになりますので、そうしましたらもっと言いたいこといっぱいあるかもしれませんが、そこで一回終わりということにしたいと思います。

それから、皆様が発表された内容からキーワードを抜き出して、スクリーンにどんどん張ってまいりますので、それも見ていてください。

そして、対話の後に、皆様方の思いに対する区長のお考えもお聞きしますので、区長もどうぞよろしく願いいたします。

では、1番。台の上に。

(質問者登壇)

司会 では、お名前とお住まい教えてくださいませ。

オダガキ オダガキヒロカズです。墨田区立花から来ました。

司会 今日はどのようなテーマで。

オダガキ 私は、墨田区立ひきふね図書館のボランティアをしております。図書館パートナーズという団体です。図書館でさまざまな読書会ですとか、子供のためのイベントなどを、年間60イベントを開催しております。今日は、その中で、「まちヨミ in 墨田」ということで、まちづくりのためにみんなで読書会をしようという催し物があるので、その辺の紹介をさせていただきたいと思います。

司会 では、30秒スタートです。

オダガキ 先ほど申しました、墨田区ひきふね図書館パートナーズは、メンバー約20名ほどで、ひきふね図書館を使って、皆さんに墨田区のことを考えてもらうような読書会などイベントを開催しております。2月28日に「まちヨミ in 墨田」ということで、1冊の本から墨田の未来を考えようということ、本をテーマに、今回は、「地方消失」という、非常に有名な本なので皆さん御存じだとは思いますが、これを題材に「みんなですみだのまちを語ろう」という会を行いますので、ぜひご参加ください。ありがとうございます。(拍手)

司会 なかなか30秒短かったです。でも、まとめていただきありがとうございます。

ありがとうございました。

オダガキ チラシがありますので欲しい方どうぞ。

司会 帰りに。

では、2番目です。

(質問者登壇)

司会 では、お名前と住んでいるところを。

イトウ おはようございます。私は肢体不自由児者父母の会の庶務を担当をしていますイトウと言います。

今日はちょっと娘も一緒に来ているんですけども、区長さんとはいろいろの会議で、出先でお会いすることはあるんですけども、なかなかこうやってお話を直接できるというのは機会がありませんので、家もすぐそこなので、今日はお伺いさせていただきました。よろしく願いいたします。

司会 ありがとうございます。では、よろしいでしょうか。

イトウ はい。

司会 では、スタートです。

イトウ 私ども、肢体不自由児者父母の会は、区長さんも御存じだと思いますけれども、もうことしの2月で丸3年、第2のグループホームを立ち上げて活動しております。役所の入り口でワゴンセールというのをしております、ずっと。火曜と木曜日です、毎週。月に4回、来られました際は、よろしく願いいたします。(拍手)

司会 ありがとうございます。

火曜日と木曜日とおっしゃいました。何時からやっというらっしゃるんですか。

イトウ 9時半から3時までやっております。

司会 9時半から3時まで。

イトウ はい。

司会 ありがとうございます。

イトウ スカイツリーのほうにも出店いたしますのでよろしくお願いします。(拍手)

司会 ありがとうございます。

3番目でございます。落ち着きましたか、どうぞ。

(質問者登壇)

司会 お名前とお住まいの場所を教えてください。

ハルハラ ハルハラワカナ、23歳で、八広に住んでいます。

司会 今日はどのようなことについてお話しされますか。

ハルハラ ちょっと防災対策について。

司会 わかりました。では、スタート。

ハルハラ 「住み続けたいまち すみだ」みたいなタイトルなんですけど、私は地震のときは怖いので正直余り住み続けたくありません。いろいろ対策していらっしゃると思うんですけども、避難所の標高が低いなと思っています。避難所が海拔マイナス幾つとかなんで、しかも、大火事が起きたときに逃げる場所が川沿いで、津波警報と併発しただけで結構絶望します。その辺のビルに逃げられるようにしてくれるとありがたいです。(拍手)

司会 ありがとうございます。言えましたか、30秒で、言いたいこと。

ハルハラ まあ何とか。

司会 まあ何とか。しっかりしたご意見ありがとうございました。

では、よろしく願いいたします。

(質問者登壇)

司会 では、お名前とお住まい、お願いいたします。

フルヤ おはようございます。フルヤマサルと申します。きょうは千葉県野田市から参りました。

というのは、両国に日本総合医学会の事務局がありまして、そんな関係で来ました。この医学会は食で健康を維持するのを理念としておりました。病気予防の予防医学を60年今やっております。

司会 では、きょうのテーマもそのようなことになりますか。

フルヤ そうなりますね。

司会 わかりました。

フルヤ いろいろ考えまして、ばしっと1分でやろうかと思えます。

司会 わかりました。

フルヤ じゃお願いします。

司会 では、よろしくをお願いします。

フルヤ 区長さんは剣道ということですから、我々は食事の道、食事道とか、食養生の食養道とか、これを追求しております。目的は、健康ではなくて、幸福な人生を送るための手段を獲得する、健康には食が一番大事ということ。

この勉強も通信講座で食養学院というのをやっております、私、14期生を今募集しております。私、第1期生なんです。ぜひ学んでいただければありがたいと。

司会 ありがとうございます。

食についてお話しくささいました。

では、お願いいたします。

(質問者登壇)

司会 では、お前と場所をお願いいたします。

アクザワ アクザワヤヨと申します。

司会 今日はどのようなテーマで。

アクザワ 向島二丁目から参りました。テーマは、墨田区全般のことを考えて、墨田区って、こういうふうになればいいなということ、住むのと、住み続けるのとは全く考え方は違うなというふうに思って、漠然としたことを言いに参りました。

司会 漠然としたことを30秒にまとめていただきます。よろしいですか。

それでは、どうぞ。

アクザワ 住みたいまちはもちろん便利なまちです。交通も便利、生活も便利、それから福祉も充実している、そんなオールマイティーのところのまちに住みたいです。でも、住み続けたい、例えばすみだに住み続けたいときは、まずアクセスをするのに選択肢がたくさんあるまちになってほしいと思います。

それともう一つ、お隣さんの顔がよく見えるまちになってほしいと思います。

もう一つは、すみだで誇れるもののあるまち、そういうまちに、私はすみだに住んでいきたいです。(拍手)

司会 ありがとうございます。

イメージで、すみだの誇れるものって何かあるかしら。

アクザワ それはやっぱり、例えば行政は100%できるわけではありません。自分が不便なこと、こういうことをどうしたらいいかというのをすみだのみんなが考えていける力を持つ誇れるもの。そういうものがあると墨田人のまちというのは、情報だけではなくて、みんなで作ろうよという、そういうまちになるんじゃないかなと、そういうふうに思っています。

(拍手)

司会 この後、また対話の時間がございますが、そちらでまたよろしく願いいたします。

(質問者登壇)

司会 では、お名前と、住んでいる場所からお願いいたします。

イトウ 板橋区から参りましたイトウヨウヘイと申します。

司会 今日はどのようなテーマで。

イトウ 私は、大学院のときにガバナンスリーダー養成講座に参加させていただいて、そこからちょっと墨田区にかかわらせていただいて、それで感じていることを申し上げたいと思います。

司会 それでは、よろしく申し上げます。

イトウ 私、ガバナンスリーダー養成講座に参加して、多世代の若い人から結構年配の方まで、色々な方がすみだのまちにかかわりたいというふうに考えているなというのは、すごい素晴らしいと思ったんです。それで、一方で、私はちょっと外部の人間なので、板橋区の間人とか、ほかの自治体に住んでいる人が、どうやったら墨田区を応援できるかなとか、私もちょっとすみだで活動なんかをさせていただいているんですけども、そういうほかの自治体とか、ほかに住んでいる人たちがすみだにどうやってかかわってほしいのかというところをちょっと教えていただければと思いました。(拍手)

司会 ありがとうございます。

そうですね。墨田区の中だけで住んでいるわけじゃない、私たちは色々かかわりがあるわけですね。ありがとうございます。

(質問者登壇)

司会 では、お名前と住んでいるところ。

マルヤマ マルヤマキンゾウと申します。

司会 今日は、どのようなテーマで。

マルヤマ 私は、戦前の昭和20年3月9日の大空襲で、僕は寺島八丁目というところにいた

んですが、それで、逃げて、命からがら助かったんです。おふくろの田舎、新潟へ引っ越したというか引き上げました。それで、3年前にまたここに帰ってきたんですが、自分の産まれたふるさとに来たということで、胸わくわくしてきました。ところが、懇談会の後にまた話ができるということを聞きましたので、そのときにいろいろ話したいことたくさんあります。

司会 わかりました。

ここでは30秒でまとめていただきます。

それでは、スタート。

マルヤマ 「住みたいまち・住み続けたいまち」というお題目はいいんですが、どうしても、やっぱり墨田区に来て、大変嫌なことばかりありました。それを後の話し合いでまた述べたいと思います。よろしくお願いします。(拍手)

司会 ありがとうございます。

今まで述べていただいた方の話を聞いて、ああこれじゃ私もやってみようかなという方いらっしゃいませんか。30秒、なかなか挑戦するにはいい時間だと思いませんか。よろしいですか。

わかりました。

発表していただいた皆様は限られた時間ではありましたが、本当にありがとうございました。

それでは、次に、区長と参加者皆様との対話の時間に移らせていただこうと思います。

場所の場面転換ございますので、少しお待ちください。

それでは、区長、壇の上に上っていただいてよろしいでしょうか。

(区長登壇)

司会 それでは、色々なテーマで、これからお話をさせていただきますが、まず対話に当たって幾つかお願い事がございます。

まずは、ご意見のある方、ご質問のある方は、その場で手を挙げてください。そこへマイクを持って係の者が参りますので、マイクを受け取ってからお名前を名乗っていただき、発言をお願いいたします。また、本日のテーマ「住みたい・住み続けたいまち すみだ」、これに沿ったご意見、ご質問に限らせていただこうと思っております。

それから、内容について、その場で回答できないというようなことももちろんございますので、その点はご了承いただきたいと思います。

そして、限られた時間内での対話となりますので、ご意見やご質問はなるべく簡潔にお願いいたします。3分以上に長くお話しになりますと「もう少し短くお願いいたします」と途中で申し上げることになると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

では、区長、このような30秒のご意見出ました。

それでは、お聞きになられて、どのような、まずご感想をお持ちになったか、区長のほうからお願いいたします。

区長 7人の皆さんから、30秒という時間だったので皆さん大変だったかなというふうに思いますが、それぞれの立場の中で、いろいろなご指摘、それからご自分のPRしていただきました。非常に多岐にわたって、今日の住みたい、それから住み続けたいの中に、それぞれのキーワードとして大変おもしろいんじゃないかなというふうにも感じています。改めて、また一つ一つというか、会場の皆さんからの声も伺いながら、これに関連した中で、皆さんと会話をしていきたいというふうに思います。

司会 また、区長の立場から「住みたいまち・住み続けたいまち」にしていくためには、どんなことが大切だとお考えになりますか。

区長 先ほども少し申し上げましたが、墨田区、これから大変発展していくし、とってもいいまちに、みんなで力を合わせてしていきたいというふうに思います。そのためには、先ほどいろいろな話もいただきましたけれども、本当に区民が、ああこのまちいいまちだなと、住みたいな、暮らしたいな、それからこのまちで働きたいな、それから、もしかするといろいろなことが墨田区観光的にやって、ああこのまちでこういうものを見てみたいな、訪れてみたときに、ああこのまちとってもいいな、住んでみたいなと、いろいろつながりが出てくるというふうに思うんです。

もう一つは、そういう中でハード部分とか、みなさんに見せていくものだけではなくて、先ほどお話がありましたけれども、例えば、安心・安全なまちにもしていかなければいけないし、子育て、今、待機児童のお話等もありますけれども、子育て施策みたいなものも充実をさせて、ああこのまちで子育てをしてみたいな。

それから、今度子育てという広い時間の流れがありますけれども、例えば小学校、中学校の学校教育の面で、ああ墨田区はとってもおもしろいな、ここで学びたいな、学ばせたいな、ということです。

要は、それぞれの世代、それぞれの世帯の皆さんが、墨田区に魅力を感じ、墨田区のいいところをしっかりと理解をしていただいて、そういう中で、住みたいまち、それから、この

まちで住みたいまち、そういうふうになっていけばいいというふうに思います。

そのために、このまちをもっともっと情報発信をして、それぞれの皆さんにわかっていただくこと、そういう努力も、今までの墨田区政いろいろなことをやってきてはいるんですけども、残念ながら、区民の皆さんに、そうした情報やまちのよさというものを届けているのかと、本当に我々からしっかり発信ができて、それを皆さんのように興味を持って、それからそのまちをよくするためにはもうちょっと私の意見も聞いてよと、こういうことを繰り返し、情報発信の面でもしっかりやっていかないと、それから公聴の部分、皆さんからお聞きしていかないと、住みたいまち、住みたいまちにつながっていかないんじゃないかなという、少し弱点みたいなのところも含めて、それをしっかり克服して改善して、今日のテーマ「住みたいまち・住みたいまち」、そういう意見を皆さんから聞きたいなと思ってこのテーマにさせていただいたところです。

司会 ありがとうございます。

区長からのご意見いただきました。

それでは、それをお聞きになって、皆様、私はこれが言いたいよということを、もし手を挙げていただけたら今マイクを持って伺います。いかがでしょう。

ハルハラ さっきも話していましたハルハラです。

情報発信ということなんですけれども、墨田区のホームページ、すごく見づらいです。観光情報ばかりで、ごみの分別法とかどこを見たらいいのかわからなくて、見づらいです。何とかしてください。改善策がわからないんですけども。

司会 ありがとうございます。

会場にお越しの皆様方で、墨田区のホームページごらんになった、見ているよという方いらっしゃいますか。

(挙手する者あり)

司会 たくさんいらっしゃいます。

皆様はどうですか。そんなことはないよ大丈夫だよというのか、やっぱりちょっとここはねなんていうことありますか、いかがでしょう。

はい。

コジマ 三丁目のコジマと申します。

ホームページ、今度変わったんですけれども、初めはいいんですけれども、何か前回との整合性がどうなるか、私ども町会でホームページをつくってまして、前は、墨田区のホー

ムページからリンクして見れたんですけれども、今度はどうやってみても、自分の頭が悪いのかどうか分からないんですけれども、ちょっとうまくリンクできないんです。前回できたのが、今度リニューアルして便利になったはずなのにどうなのかなとちょっと思いました。

司会 そうですか、町会のほうのホームページとリンクがないよと。

コジマ 何とか前はできたんですよ。登録してあるホームページもあるというけれども、そうじゃなくて、ホームページでリンクするところがあって、それを見ると一応出している町会のホームページを見ることができたんです。今回、ちょっとそれをやってみたんですが、どこから入っていいかちょっとわからないんです。

司会 なるほど。これは、どちらからどういうふうにお答えしましょう。

区民活動推進課長 私、区民活動推進課長ナカヤマと申します。

ただいまのホームページの関係、多くの町会さんにつくっていただいています、区の公式ホームページ、リニューアルの関係で、まだ調整がついてない部分もございまして、また個別に、ご連絡させていただきたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございます。

区長 コジマ会長の今のお話、それからハルハラさんのお話で、いろいろ私もずっと区議会議員、きょう何人がいらっしゃっていますが、議会の中でも、非常に今までのホームページが見つらいというご指摘をいただいて、この10月からですか、リニューアルということとさせていただきます、それから Facebook もあわせて始めさせていただきます、情報発信 という点で SNS という形で、少し力を入れていこうということの一つ。

確かに、ホームページのリニューアルの中で、今、ハルハラさんのお話のように、前よりちょっと見づらくなった、それから、今、コジマ会長のお話のように、前はリンクがすんなりできたけれどもなかなかできないと、どこへ行ったらいいのと、こういうご指摘もちょうだいしております。変えたから、これが全てで、これで全部やってくださいということではなくて、やっぱり今日みたいなお話を聞いて、何が悪いのか、それからどうやったらもう少し見やすくなっていくのか、こうしたものは当然タイムリーに直していくと、こういう姿勢が区としても必要だというふうに思いますので、今までだと、もしかするとこういうふうに変えたんだから、これで区民の皆さん我慢してやってよということも、もしかしたらあるのかなというふうには思いますが、そうじゃなくて、そういう声はしっかりタイムリーに変えていくという姿勢を持ち続けて、そういう中で中身をよくしていきたい。それから、目標は、区民の皆さんがしっかり欲しい情報を私たちがしっかり提供できる、ここは一番の目標

ですから、そのことに徹していきたいというふうに思っています。

司会 ホームページを見ていらっしゃる方とても多くいらっしゃったので、その中で、タイムリーな情報、入ってきているね、大丈夫だよっておっしゃってくださる方、それからこういうことはどこを見たらいいんだってというようなこと、まだもう少しありましたらどうぞ。大丈夫ですか。いらっしゃらないですか。ホームページ本当にたくさんの方が見てくださっているんですね、ありがとうございます。

では、次の質問に移らせていただきます。

はい。

マルヤマ マルヤマキンゾウと申します。

3月9日の大空襲で、3時間ぐらいの間に、15人ぐらい亡くなった方がいるようでございますけれども、これも本当に焼け野原で、もっと見えていたところあったんですが、3年前にこっちに帰ってきましたけれども、とりあえず大局的な話を、もっと細かい話もあるんですが、細かい話から行きましょうか。

大局的な話からちょっと二、三申し上げます。

墨田区で大学を誘致すると、まちを活性化させる、いいまちにしようということで、7年前か8年前にあったようでございますけれども、学校の名前も公表しない、隠している。それで、去年だか、その前の年にもうそれが結局破談になっちゃったと、なおかつ誘致しようとした大学の名前も公表しない、隠している。これ何でございましょうかね。

その問題と、前の区長は、三代にわたって約50年間やってきたようでございますけれども、とにかく50年というと腐ってきますね。僕は浦和にいたことがあるんですが、浦和に20年いました。とにかく、浦和の件は次回、半年ぐらいにまた催してもらえないと思うんでございますけれども、とにかく墨田区、色々僕なりに研究しましたけれども、とにかく腐って腐って腐っていると。だから腐っているところに、また新しい風を吹き込もうとしても難しい問題があると思えます。

司会 今、そこの2点に絞らせていただいてよろしいですか。

マルヤマ はい。

司会 ほかに住んでいらしてまた戻ってこられた方のご意見でしたが、いかがでしょうか。

区長 率直に、すみだに3年前に戻ってきていただいて、または空襲という色々な大変な経験をされたということで、大先輩の意見をしっかり聞きながら、私は、区政を……腐っているというのはちょっとよくわからないんですが、もしかするとマルヤマさんから見て、「墨

田区政何をやっているんだ、全然覇気がないぞ」と、「もっとしっかりやれ」と、こういうご指摘というか、激励だというふうに受けとめて、これからも一生懸命区民の皆さんと協力して、いいまちにしていきたいというふうに思います。

それから、大学誘致に関しては、23区の中で大学を有していないというのは墨田区だけありまして、ただそれだけのことではなくて、やっぱり子供たちの教育の面でも、まちに大学があって、大学生がこのまちに通って、そういう姿を見る子供たちの教育面において、それから、そういう1,000人規模、2,000人規模の若い学生さんたちがこのまちを歩いてもらって、通学をしてもらって、そういう中でまちが活性化をしていくと、いろいろな面で活性化をしていく、そういう大きく言うと今の2つの点で大学誘致というのは大変必要だというふうに思っておりまして、今までの経緯というのは、確かに交渉をしながかなか御縁がなかったと、進出していただける大学と答えが出なかった。こういうことについては率直に反省をし、これから私の任期の間に、何とかこのまちに、文花、京島の地域にやっぱり大学を誘致して、そこを中心としたまちづくり、それから子供たちの教育面での大きな効果を実践したい、実現したいというふうに考えています。

司会 ありがとうございます。

いかがでしょう。

はいどうぞ。

ヤマグチ ヤマグチと申します。よろしくお願いします。

自分が、普段、外国人の方が日本にやってきてボランティア活動をされるということにかかわっているものですから、訪日外国人の問題に非常に興味を持っています。とりわけ、墨田区にはスカイツリーや素敵な場所もたくさんあるので、外国人の方がたくさんいらっしゃると思うんですけども、それに伴って、今、自分が非常に興味を持って、日々それこそWebサイトを拝見させていただいていることのポイントの一つに民泊問題がございます。もし、今後、何かそういったことで動きがあったりとか、今、何か議論なさっているポイントがあれば、非常に興味を持っていて、知りたいなというふうに思っているところです。

私個人としては、マンションに住んでいたりというわけではございませんので、マイナスな印象を持っていないところではあるんですけども、人によっては、やはり安全面であるとか、そういったところで大反対だというふうな声も聞いております。長屋など空いている物件もたくさんあると思うので、資源を有効に活用したいというふうな気持ちと、その一方で、住んでいる方々の安全で安心な暮らしを守るという両方の見方があると思うんですけれ

ども、間違いなくどんどんたくさんの方が墨田区にいらっしゃると思いますので、その点について、お伺いしたいなというふうに思っております。よろしく申し上げます。

司会 今、民泊という言葉が出ましたが、もうちょっと詳しくお話しいただけますか。

ヤマグチ 私も専門家ではございませんので、ちょっときちんと説明できるかわかりませんが、これまではホテルだったりとか、そういうふうな免許を持って運営をされている旅館業を営われているところにだけ人を泊めることができたと思うんですけども、最近、例えば特区があって、台東区などがそうだという話なんですけれども、実際の民家に人を泊めていて、それで料金を発生させて、もう少しワイドで、固定化されていないタイプの宿泊のサービスを提供しようという動きが進んでいるというふうにお伺いしています。

司会 わかりました。

いかがでしょうか。

区長 観光客で、訪日という外国から来ていただくお客様が大変ふえている、まさにそのとおりであります。これは、東京スカイツリーもありますし、日本の伝統、それから歴史を有する墨田区ならではの魅力をぜひもっと発信して、外国の方にもたくさん来ていただきたい、これからも考えているところです。

その中で、例えば下町特有のおもてなしとか、オリンピック・パラリンピックも2020年、もう4年後の7月ということで、これはリオ五輪が終わると、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックにシフトされるんだと、こういうお話もある中で、これからも訪日の外国人の方ふえていくと。墨田区もそういう方をたくさん来ていただくようにしっかり施策を練っていかねばいけないというのが、まず大前提であります。

おかげさまで、今、例えばですけども、墨田区内でホテルをつくっていききたいという事業者の方々が大変ふえておまして、これからオリンピックに向けて、そういうホテル業、旅館業の中の宿泊施設というのが、今の、多分キャパシティの倍近く増えていくのではないかという現状です。要は、それだけ墨田区内というのは、観光的にも魅力のある、そこで宿泊滞在型の観光をしていただくようなまちづくりを、これから民間の事業者の皆様も考えていただいているという現状にあるという点がまず第1点。

そこで、例えば大田区さんなんかもそうですけれども、民泊という形を全面的にというか、ぼんと打ち出してお話が出ておりました。新聞にも報道されておりましたので、その中で、ある意味興味を持ったり、それからこれを施策として行政がやっていくことによって、まちの特色というか、売りになるんじゃないかと、こういうことも含めて、または、宿泊をする

方が増えていくと、ホテルも増えるけれども、民泊によって特色ある宿泊ができるんじゃないかと、こういう施設、整備をしていくということをやられている自治体の方がたくさん出てきている、たくさんでもないですけども出てきているという現状にあります。

それで、ヤマグチさんおっしゃったように、どんどんそれをつくっていくという考え方で、例えばまちの雰囲気壊れてしまう、下町特有の町会であったり、人のつき合いであったり、それから外国の方が悪い人ばかりじゃないんですけども、そういうまちとちょっとそぐわない、まちのルールと違うことをされたりするということを心配される皆さんもたくさんいるというのも事実です。ですから、今後、我々もある意味考えていくという中では、しっかりしたルールをつくって、そのルールのもとで空き家の対策であったり、それからそういう事業者、またはそういうことを考えていらっしゃる皆さんと少しよく話をし、現状、それから今後の展開、ルールを絞った上で、そういうものを作っていかねばいけないという中で研究をしていくテーマだというふうに、これは考えています。

司会 ヤマグチさんよろしいですか。

ヤマグチ ありがとうございます。

司会 本当にスカイツリーができてから、外国の方を町なかで見える機会というのはすごく増えたと思いますけれども、そういう中で、何かこんなことがあったのよなんていうこと、はいお願いいたします。

シラカワ 企画委員のシラカワと申します。

民泊については、私、実は自宅がゲストハウスになっちゃって家を売ることになりました。そういうことがあって、民泊の話が出たときにこれは危ないなってすごく思ったんです。なぜならば、そこにブローカーが入ってくるんです。ブローカーが入っちゃうんです。だから貸している人と借りている人が全然わからなくなっちゃうんです。だから民泊なら民泊をするという方の登録とか、法整備とか、絶対必要だなと思います。いい面ばかりではなくて、難民問題も大変なことですけどもありますよね、中東のほうで。どういう人が、何の目的で日本に来るかということが、いい人ばかりではなくて、悪い面だけを見たくはないですけども、やっぱり危機管理が必要じゃないかな、ルールというか法整備が必要じゃないかなって、そして、もしも外国の人が来るならば、やっぱり地元の人と交流できるようなコーディネーターというんですか、そういう方がきちんと間に入ることが必要じゃないかなと思います。

以上です。(拍手)

司会 区長、いかがです。

区長 いい面と悪い面と、それから、いい面というのは、まだこれから形として出てくるので、それも先進的にやられた区の実態というのは、これは注視をしていかなければいけない、注目をしておかなければいけないという点だと思います。

それから、現状も、じゃやみましょうという優しい言葉に乗って、今、シラカワさんのお話のように、思いもしない、そういう事態に出くわしてしまうという、これはいいことではないというふうに思いますので、そういう事例も含めて、それからそういう地域の皆さんの声も、これも聞かないと、区長知らない間にうちの周りに外国人が住み始めたみたいな、そういう流れになっては私はいけないというふうに思いますので、その点、今日とってもいいご提案というか、機会だなというふうに思いますけれども、しっかりそういうのを区民皆さん共有した中で、これからの考え方に結びつけていかなければいけないというふうに思います。

司会 ありがとうございます。

今、ちょっと観光がテーマになっておりますので、そういうテーマに沿ったご意見ありませんか、そのほかに。

はい。

オカヤス 観光の関係ではないんですけども、立花に住むオカヤスと申します。

今、国際結婚がはやっているので、結構外国人の方が来ていらっしゃるんです。それに付随して家族の方がいらしています。そういう方のときは、住民票というのはどういうふうになって、またそういう方が日本のルールを知らないで生活しておりますよね。スーパーに行っても、半分ぐらいの方と言ったらオーバーかもしれないけれども、頭の上で外国語でしゃべっております。買い物は数字が出ているからそれでお金を払えば生活はできますけれども、日本の一番いい住み方ができるようなルールを教えてもらえるような、住民票を届けた際に、日本語ができますかとか、そういうものに対してはこういう学校がありますよとか、教えていただいて、生活援助だけではなくて、これから住む、私たちも住んでいる、お互いに生きていくためのルールを守れて、またこれからは、私たちは今4分の1が老人です。若い世代の仕事の働き手が欲しいのですから、まず日本語ができなければ、うまくコミュニケーションもできないし、そういうような関係のものがあつたらば、区役所のほうからPRをしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

司会 お近くに住んでいらっしゃる方とは、直接お話しすることってというのはないんですか。

オカヤス あります。私、今、都営住宅でお世話になっております。そうすると、現実には、お隣の方の息子さん、お父さんと息子さんと引っ越しなされてきました。そうしたら、外国人の奥様が来ることになっております。そうしたら、何かいつの間にか年寄りと、また息子さんより年上の息子さんですね、奥さんの連れてきた方が。あれっと思って、ただ奥様は、こんにちは、おはようだけはおっしゃってくださいます、会えば。だけれども、ほかの点とか、また今はもうお住みになって20年、30年の外国人の方もいらっしゃいますけれども、都営住宅ですから持ち回り当番みたいのがございます。でも、「私日本語できません」、十分じゃないかと私は思うんですけれども、だから役はしません。そうするとだんだん年いってくると、若い方にしわ寄せがどんどん来てしまうんです。だから、年の若い外国人が来ることオーケー、お仕事をさせていただくんですから、でもやっぱり働いてもらわなきゃ税金が入らない、正規で来てもらえば税金も入る。だから、そのためには、やはり日本に住んでいただくためには、最低限のこういうことはしてくださいよというものを出張所とか、区役所で申請があった時点で、お勤めしていただけるような制度があったらありがたいなと思います。

(拍手)

区長 先ほど墨田区の人口が26万人を突破しましたというふうに申し上げましたが、そのうちの約1万人の方が外国人の方です。これは住民登録をしていただいて、各地でお住まいになっていただいている皆さんの合計が。ですからもう26万のうちの1万人はそういう外国の方ですみだが好きで、墨田区はいいと思って、またはその連れ合いの方が墨田区出身の方で、お住まいいただいているということなんだろうというふうに思っています。まさに、いろいろな方がいらっしゃって、ルールをしっかりと守る日本的な方もいらっしゃれば、住んだばかりで、ご自分の国の文化がすみだの文化とやっぱり違って、日本の文化と言いましょうか。なかなかそれにまだまだなれない方もいらっしゃるというふうにも思います。ただ、下町の特長というか、とってもいいのは、やっぱりそうした方々をうまく導いていただくというか、今のご挨拶なんかでも「おはよう」って声をかけることによって、相手も日本語がわからないけれども「おはよう」というような、そういう地域の結びつきというのが墨田区のいいところであるのかなというふうにも感じたわけです。

ご提案の多文化共生社会というか、やっぱりそういう皆さんを受け入れながら、26万区民として、墨田区をいいまちにしていくということの中で、すみだルールを住民登録の際にしっかりとあらわして、教えて、こういうルールは最低限お守りください、それから日本語については、ぜひ学んでくださいと、そういうためには、こんなカルチャースクールがあります

とか、こういうところがありますというようなことをご紹介をして、おっしゃるように、共生ができる、お互いが理解しあえる、そういう社会づくりを先進的に23区の中でもしていける、そういう素地が墨田区にはあるというふうに思いますので、ぜひそういう面でのご協力をいただくことと、色々な地域での問題もあるというふうに思います。今みたいなお話よりももっといけないお話もあるのかなというふうにも思いますが、ぜひそういう面もご報告をいただきながら、適切にその辺の方々にも対応し、対処していかなければいけないところは役所として対応していくようにしていきたいなというふうに思います。

司会 ありがとうございます。

いかがですか、そのほか。はい、いらっしゃいました。

一番後ろの方です。

オクトミ 座ったままで失礼します。

司会 お名前をお願いします。

オクトミ 八広から来ましたオクトミフジオと申します。

きょうは、初めてのタウンミーティングということで、質問したいことは1つ、山本区長さんが、50年後をどういうふうに墨田区というものを描いているかということをお聞きしたかったんです。それは区長さんの意見ですが。

私の考えは、これからは墨田区の商工業者は衰退の一途をたどると思うんです。それと墨田区のあり方はどうしたらいいかと言うと、やっぱり観光、とにかく人が集まらなきゃだめだと、日本人で集まれば一番いいんだけども、それだけにこだわってられない。やっぱり外国人も集まらなきゃいけないと。だから悪い人もということが、昔、ことわざに「糞に懲りて膾を吹く」というか、要するに悪い事例を懲りて有効な事例を忘れるということはあるんです。だから、墨田区で悪いことをしているというのは、多分オーバーステイとか、そういうワースト滞在というか、そういう人だと思うんです。ですから、そういう人に焦点を当てて、それはそれなりにまた方法を考えればいいんであって、とにかく墨田区に多くの人が、観光的でもスカイツリーと国技館があるでしょう、だから、今のところそういうものをどんどん核にして、経済効果をねらえばいいと思うんです。だから商工業者の衰退でいっている空き家とか、さっき民泊の質問がありましたが、よく私たち学生時代リゾートに行きましたね。民宿なんかありましたけれども、例えば許可にしても、あれは保健所の許可で済んだわけです。だから民泊と構えちゃうと、やっぱり国土交通省の許可が要るからややこしいんだけども、そういうのを脱法的と言うと失礼だけれども、何か国はもう頼りにならない

という前提に私は考えていますから、やっぱり区民が世界的に視野を持って、どんどんそういう人みんなに来てもらうと。墨田区は北斎をいっぱい芸術的に盛り立ててやっています、宣伝していますけれども、それも一つの案なんです。だから、あるいは商工業を、日本自体がもう将来が観光業だけじゃないただけれども、人がとにかく来てもらうということが生命だと思っんです。だから、50年後を考えてやっていきたいと思いました。

以上です。

司会 わかりました。ありがとうございます。

区長 50年後の墨田区という、そのテーマというのはすごく重要な観点でありまして、どうしても1年先とか、私の任期とか、それから10年後の将来と違って、こういう流れで皆様にいろいろなことをお示しするんですが、今のオクトミさんのお話が、すごい参考になります。それで、50年後というのは大事なテーマで、例えば、今一つの例として商工業の衰退、このままで大丈夫かというお話もありました。それから、それは働き手の皆さんをしっかりと育ていけよというお話だというふうに思っんです。働きたいまちとか、新しいビジネスが生まれるまちというものを今の時点でしっかりとつくっていかなければいけない、そういう中で持続可能な墨田区基礎自治体というものをつくっていかなければいけないという点と、お話をしたいと思っていましたのは、やっぱり地域力、これをしっかりと上げていくことによって、例えば町会が今このままでいいのかと、50年後、今ある地縁組織、町会が本当にこのまま衰退しないで、まちを支えていけるのかという、これも大きなテーマです。

それから、それを中心とした地域力という、今日みたいな皆さんの声もしっかり支えになって、それぞれが発言ができて、まちをつくっていくという意識を持っていただく方が増えていただかないと、50年後の墨田区というのはいないんじゃないかなということなんです。

ですから、その辺を今思い切って私が言っているのは、地域力日本一のまちを目指して、50年後もしっかり持続可能なすみだの下町、人情あふれるこのいいまちを、今、例えば産まれた方1歳の方は、50年後、51歳ですから、その方がやっぱりすみだをしっかり支えてもらえるようにこの50年間をちゃんと生きてもらう。そういう方をどんどん、まちを愛する若い人を育てていく、こういう人材育成、人づくり、こっちのほうも大事だというふうに思っます。

大変貴重な、50年後のテーマというのを、我々区役所も、行政も、しっかり頭に入れて、これからのまちづくりというものに参考にしたいというふうに思っます。

ありがとうございます。

司会 ありがとうございます。

どうぞ。

質問者 先ほどの大学誘致の話がありましたけれども、それは一つの本当に将来に向かっていい試みなんで、ぜひともお願いしたいと思います。

司会 わかりました。ありがとうございます。

区長 どうもありがとうございます。

司会 先ほど奥で手を挙げてくださった、後ろのスーツの方、まずはお願いいたします。

キクチ 墨田区の菊川から来ましたキクチと申します。新宿で弁護士をしております。墨田区では、すみだネットという異業種交流会に加入しております、そこで中小企業の経営者の方たちと月一度ぐらい集まって交流会等を開いております。

先ほど、民泊とかの話もありましたけれども、仕事上、そういう問題も私も多く取り扱っていて、法律とは関係ない一般の方々も関心があるのかなというふうに思って、すごく私としても興味深い意見をお聞かせいただきました。

先ほど、30秒のトークのところで、ほかで誇れるまちにしたいというところがあったと思うんですけども、誇れるということの中には、住みよいと自分が感じるということと、あとは他のところ、墨田区以外からも認めてほしいというような2つの視点があると思います。墨田区というのは、私は本当に産業とかものづくりとか、すばらしいまちだというふうに経営者と話す機会が多いことでそういうふうを感じているんですけども、最近までドラマであった下町ロケット、すごくあれは下町の工場とかに目を向ける、いい機会なのかなとすごく思っていたんですけども、あのドラマが終わって3分ぐらいで下町の工場を紹介する番組がちょっとやるんですけども、それ全部大田区なんですよ。

私が、区長にお願いというか、ご期待したいのは、まず墨田区のすばらしい産業を、先ほどの商工会議所商工会のこともありますけれども、産業をどういうふうに発展していくのか、今は Amazon とかすごく立派な便利なツールもありますけれども、やっぱり昔ながらの工場を応援したりとかということがひとつ大事だと思います。

あと、もう一つは、外部に対する発信です。墨田区というのは、今スカイツリーがありますので、スカイツリーがある区なんだろう、下町なんだろうというようなイメージはあると思うんですけども、ほかにも色々すばらしい誇れる点があると我々は理解しているけれども、ほかの人に知ってもらおうというのは、すごく大事なことなんじゃないかと思うので、そういう広報の点、この2点についてお聞かせいただければと思います。

司会 ありがとうございます。お願いいたします。

区長 誇れるまちの中で、色々あるじゃないかということですね。それから、その中で、そういうものをしっかり整理して、打ち出していくという、そのことが重要だというようなご示唆かというふうに受けとめます。

ものづくり、まさに、先生に色々と参加をしていただいて、とってもいい会社、やる気のある事業者の皆さん、墨田区にたくさんおまして、例えばすみだブランドの認証であったり、それから様々な新しいものに取り組んでいただいたり、それから、最近では、他区からもすみだで皆さんと一緒に仕事をしたいというふうに思っていて、コラボレーションによる企業進出みたいなものも非常に増えてきています。ですから、歴史と伝統のあるすみだのものづくりというものを、これは生かしていく、これは誇りの一つだというのは間違いないんですが、その点、我々の産業観光部門、産業経済部門の中で、やってきている継続性と、今後それを生かしてネットワークにしていく、そこの取り組み、それから、さらにはその成果を情報発信していくということが、まだまだ足りないというふうに思いますし、下町ロケットで大田区が下町の工場の象徴となっているというのは残念で、すみだも同じようにもっとすばらしい技術を持った会社もあるんだよということを、これはしっかりつなげていかなければいけないと思います。

それから、僕もあのテレビ見ていましたけれども、阿部寛さんが最後に、「あなたには夢があるのか」という話を、ライバルとなる小泉首相の息子さんに言っていましたけれども、やっぱりそういう夢を持つ会社を、それから裏打ちされた技術を持つ会社を応援しながら、しっかりしていくこと、さらには、そうした技術を、もし跡継ぎがない会社の皆さんには、事業を承継していくようなマッチングのシステムとか、それから現状をこんなことをしたいという皆さんを応援できるシステムとか、やっぱりメニューというものはしっかり用意をして、ものづくりについてはやっていきたいというふうに思います。

それから、誇れるものという中で、例えば、これから北斎美術館、これは葛飾北斎という90年の生涯をほとんどを墨田区で過ごした、世界に誇る絵師でありますけれども、その方の作品、美術館を11月に今年いよいよオープンするようになります。そういうふうになると、例えばですけども、両国のまちというのは江戸時代からの歴史を大変有していて、それで江戸東京博物館があります。安田庭園があります。そして、その安田庭園の両国公会堂の跡地には、来年、刀剣美術館と言って日本刀の博物館ができてまいります。さらには、江戸博の中も今リニューアルして大変いい企画展をして、人が並んでなかなか入れないよう

ない状況があります。そこに北斎美術館ができます。そして、4年後には、両国国技館がボクシングの会場として、いよいよオリンピックの試合が、世界最高峰の試合が行われる。お相撲さんのまちでもある。さらには京葉道路の向こう側には、勝海舟の公園があったり、忠臣蔵の吉良邸があったり、江島杉山神社があったり、要は両国のまち自体もそれだけ実は誇れる歴史を有するいいまちなんだけれども、なかなかそれをまだまだ皆さんに区内外、それから世界に、もっともっと広めてすみだの観光というものもしっかり広めていくと、やることたくさんあるんですけれども、今、キクチ先生からは、ものづくりのしっかりしたPRと、それから、その事業者を盛り上げていくこと、さらにはすみだの誇れるものというものをもっともっとつくっていくというご示唆をいただきましたので、ぜひ頭に入れて、これからも取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございます。(拍手)

司会 ありがとうございます。

では真ん中の。

フルヤ 野田市から来ましたけれども、両国で活動しております。フルヤマサルと申します。

食事道、健康には食事、食養道って書いていただきましたけれども、本当にいいキーワードだなと思ってずっと見ていたんですけれども、剣道と同じ、日本人は道の文化ですから、やっぱり道をきわめるということで、道というテーマでやっておるんですけれども、すみだで人づくりを考えたときに、ずっと私食育をやっているんですけれども、究極は学校給食を理想的な給食に区長さんのいるとき、それから退任された後もずっとそれがやっぱり人づくりの基本だということ、ぜひすみだの売り物にしていきたいと思えます。

キーワードは、三島市が前任の市長がずっとやっていた食育を新しい市長が対抗馬だったもんですからそれをちょっとやめたんですね。そうしたら、その教育は市民に伝わってしまして、市長それじゃだめじゃないのと言われたら、その市長が民意を反映してまた前回からずっとやっていた学校給食です、それで市民の健康を保持するような食育に力を入れた結果、3億円保険財政が黒字になったということで。

大塚貢先生って、今は真田丸で有名な上田市にいらっしゃるんですけれども、上田市も食育でまちを立派にしているわけです。だから先進事例は1カ所、それから千葉県野栄町もやっぱり学校給食で本当にいい教育をされています。

だから、人づくりということで、今お聞きしたら、20代から40代までの市民が46%いらっしゃるということですから、若者に一番ポイントになるのは、やっぱり学校に行けばおいしくて元気になる食事が食べられるよという体制をぜひつくっていただきたい。そのためには

発芽入りの御飯給食、これをぜひキーワードでやっていただきたい。東大の学食でも、玄米食が注目され始めているということですので、大学はないけれども、食の文化で墨田区は日本一の食文化のまちだと。

昨年は、墨田区だけで第10回食育推進全国大会を進められたんです。大成功だったんです。だから、あれは誇りに思っていると思うんです。ことしは郡山でやりますけれども、だから、墨田区は下町でありながら、食をキーワードで、すみだは「食育 good ネット」というすばらしいのもあるということを知っておりまして、それを見習って、私は千葉県野田市に持ち帰って、今やっております。だから、ぜひ、区長さんよろしくお願いします。

区長 どうもありがとうございます。

大変いいキーワードを、道について食事道、食養道、これはぜひ私の、これからの区政運営の参考にさせていただきたいと思います。今、ご指摘いただいた点も含めて。

いろいろな切り口あると思うんですが、一つは、区民の健康というテーマ、これは全体像で大事なので、各世代、年代にかかわらず、やっぱり区民の健康をしっかりと、私どもはサポートをしていくことを考えていかなければいけない。これから、議会にも相談しますが、新しい健康センター、今、本所の保健センターと向島の保健センターがありまして、両方とも45年ぐらいの古い建物で、スペースも含めて、機能も含めて、なかなか区民の健康を守る施設かどうかというふうに考える中で、これはやっぱり適地を探して、区民の健康をしっかりと守る拠点としての最新式のすみだの健康センターをつくっていきたいというふうに考えています。

例えば、その中に食育の good ネットの皆さんが、当然そこで会議をして、専門的なお話をして、すみだの食育を、去年第10回目の全国大会があつてすみだを担当したという、これはもう非常にうれしいことでもあり、誇れることでも、先生おっしゃるように思いますので、その食育運動というものを、今後、どういうふうに続けていくのか、こういうことをやっぱりしっかりと考えていくメンバーであるというふうに思っています。

それから、一番大事なところは、子供たちの食、それで、色々なことがありまして、例えば朝御飯を食べてこないお子さんがいたり、そういう子供の貧困というパターンもあるわけですが、そういうことも含めた子供の食というキーワードの中で、今ご指摘の点をちょっと改めて、私の頭の中にいまひとつなかったんです。今ご指摘いただいて、特に給食をどうしろということについて、いろいろやることはある課題の中で、今の先生のご指摘を含めて、墨田区の学校給食について、少し頭に入れて考えていきたいというふうに思います。

全体像で言うとそういうことになります。ありがとうございます。

司会 ありがとうございます。

では、よろしく願いいたします。

イトウ ちょっと福祉のほうで、私、肢体不自由児者父母の会のイトウと言います。

あそこには書かれていますワゴンセール、月4回というのは、目標に向かって、グループホームづくりと言いますか、医療ケアグループホームというのを今立ち上げて3年目になるんですけども、一つ目がすずらんというのが5年ほど前にできた、今もう菊川三丁目ですか、あちらのほうにあるんですけども、年齢、やっぱり学童のほうも重度化していく中で、親たちも高齢化してきまして、私もあと5年すれば後期高齢の年に入るのでですね。他区のほうはいろいろな施設だとかいうところを20カ所、30カ所ぐらいもう見学して回ってきたんですけども、うちの子は気管切開してしまっていて、一応話はできるんですけども、ショートを受けてくれる場所っていうのが医療入院という形になるんです。できれば、今後、親たちなき後生まれ育ったすみだで、安心して暮らしていけるグループホームを目指して立ち上げてもう丸3年になりますけれども、なかなか墨田区は観光資源の建物というのは非常に多いです。それで、私個人的には、葛飾北斎の建物ができると言ったときに、莫大な資金を掲げて、そういう建物をつくるぐらいだったら、福祉のほうの建物、施設みたいなものをつくっていただければありがたいなと思いつつ活動してまいりまして、他区を見ればうらやましいと思う点はたくさんありますけれども、それは私たち墨田区に住んでいますので、墨田区にあった行政のやり方もございますでしょうけれども、やっぱり私たち65を過ぎて、あと10年先を見据えると、なかなか10年先のことなんか今ちょっとどうなっているんだろうという不安もありまして、多分、福祉行動計画の作成中か、もう……

区長 いや、去年からスタートしました。

イトウ そういう中にも、たくさん要望されます方の中に含まれて、何年かするとそこからちょっと名前がなくなっているということもありますので、今後の福祉の暮らしというか、この子たちへのそういうのをちょっと将来的にお聞きしたいです。

司会 お願いいたします。

区長 ありがとうございます。これは私区長として、障害者の団体連合会の皆さんとも、いろいろな形で意見交換、それから各会にお邪魔をしたり、それからいろいろ現状の皆さんの状況も数多く伺う、今日もいただきました。本当にありがとうございます。

やっぱり、親なき後のお子さんのことですね、それから絶対的に施設が足りないんじゃない

ないかと、こういうご指摘、まさにその辺を障害者福祉行動計画、それから墨田区地域福祉計画の中で、当然グループホームもこれから早いうちに整備をして、皆様の期待にこたえられるように思いますし、ただホームをつくる、器をつくるということではなくて、やっぱり今おっしゃるような機能面、他区の例を見ると、医療入院のショートがついていたり、見るとこういうものだといいなと思われる施設というのも当然あるというふうに思いますので、いわゆる一つをつくれれば色々な形で障害者の皆さんが、例えばショートステイができるとか、付加価値もしっかりつけた施設にしていかなければいけないというふうに思いますし、これは計画の実現に向けて、今、早目に対応したいというふうに考えていますので、ぜひまた引き続きそういういい施設の現状とか、区民として、障害者の親としてこう考えるというようなものは、直接我々のほうにお声を、また具体的にいただければ、それを生かせるように努力をしたいと思います。

司会 ありがとうございます。

皆さんにお手を挙げていただくようになりました、お時間の都合がございまして、大変恐縮なんですが、この次の質問を最後とさせていただきます、どうぞお声。

では、今、手を挙げてくださっている3人でストップということにさせていただきます。

では、先に、はい。

マルヤマ 東向島三丁目のマルヤマキンゾウと申します。

先ほど話しました大学誘致の問題でございますけれども、やっぱり墨田区に魅力がないと、その土地に大学を持っても問題があるということで撤退したんじゃないかと僕個人で考えております。

それと話は違います。

外へ出ると、人の家のところに犬がうんちをしていくんです。みんな袋かなんか持って片づけるようなふりをしているけれども、人のところにうんちをしていって、自分の愛犬のうんちも始末できないような人は犬を飼う資格がないと思うんです。それでおしっこをしたり、人間がたん、唾を吐いていたり、たばこの吸殻をポンと捨ててくる、朝、前の家の奥さんもほうきではいていますけれども、とにかくたばこを吸うのも結構ですよ、でも吸った吸殻を捨てていくんです。たんはしていくは、犬のうんちは始末しないは、もうとにかくマナーが悪いんです。

それと、僕は毎日スポーツクラブルネッサンス、25年通っておりますけれども、その湯舟、結構ひどいんですけれども、60ぐらいのおっさんが、立ったまま、湯舟は低いからみんな

なはね返っちゃうわけです。だから、僕、幼稚園の子供でさえ座ってやれよと、そうすると、そのおっさん嫌な顔をするかもしれないけれども、自分が悪いことをやっているというのを知っているんです。とにかく、マナーが悪いんで。

それであともう2つ意見、墨田区に来て、自転車で買い物に行って、次のお店に行って買って、それで戻ってくると買ったものが取られちゃっているんです。まずもう、とにかくスキも油断もないんです。

もう住みよいまちとか、住み続けたいまちという以前の問題なんです、マナーが悪い。もうあきれかえっちゃうんです。

司会 ありがとうございます。

マナーの問題が出ましたが。

区長 犬のマナー、それからたばこのポイ捨て、それからお風呂の入り方、いろいろマルヤマさんのご指摘で、これ、今みたいなお話が、本当に一つのことがあると、やっぱりいろいろなところでもあったりしますから、そういうまちになっちゃうと住みたいまちでもないし、住み続けたいまちにもならないということで、そういったそれぞれの区民のマナーというものをぜひ守っていただけるような、それからおもてなしの心というものも、しっかり醸成させて、区内で生活する人が気持ちよく、それからお互いが助け合って、お互いがごみを拾って、お互いがそういう気持ちの豊かさというもの、心の豊かさというものをもう少し区民全体で共有できる、そんなまちにしたいというふうに思いますので、ぜひマルヤマさん、これからもご協力よろしく願いいたします。ありがとうございます。(拍手)

司会 では、どうぞ。

アクザワ 向島二丁目のアクザワと申します。

先ほど、皆さんから色々お話を聞いて、とてもうれしかったのは、区長さんが墨田地域力を上げたいということをおっしゃいました。私は地域ではなくて墨田力というふうにいつも思っているんです。

先ほど、どなたかおっしゃいましたけれども、食育のことについておっしゃいました。学校給食、非常に大事なことですけれども、私の主婦的な感覚から言いますと、やはり食事は家庭の中から、まず大事にしなければいけない、そういうふうに思っています。で、食育のこととか、行政でも、地域の方たちも、色々なことをなさっているんですが、皆さんに伝わるというのはなかなか難しい。やはり地域の中で、色々なことをみんなで共有できるようにしていくのには、食育というのはすごくすばらしいキーワードだと思うんです。

その中で、ひとつ墨田区は農業というものはないんです。たまたま私は近くにちょっとたたみ1畳ぐらいの畑を借りているんですが、それを借りて思ったこと、食物をつくるということは、例えば私たちが今まで話したことを色々解決できる方法がたくさんあるんだと思うんです。物を育てる、生きていく力、それから物を大事にすること、食べることの大事さ、それから周りの人たちを考える大事さ、そういうものが全部含まれていると思うんです。すみだには、皆さんと一緒に物をつくろう、例えば食、食でもそうなんですけれども、つくる場所というのはないですね。あるところで、墨田区の公園ってつまらないと思うんです。子供を遊びに連れていきたいという公園じゃないところがたくさんある。公園は基本的に私的な食材をつくってはいけませんし、野菜とか、そういうものをつくる場所ではないのですが、地域の中で、そういうところを利用する、魅力のないところを利用して地域の人たちが集まる、それでその中にいろいろな話が出て、例えば皆さんのマナーでもそうですけれども、例えば外国人の方がみえた場合でも、そういう方たちとのコミュニケーションをとるのにとってもいい場所になると思うんです。例えば一番いいのは荒川の河川敷など、あんな広いところがあります、あそこを使うのもなかなか難しいかもしれませんが、そういうところでも可能性のあるものをどんどん使っていったらどうでしょうか。公園もあります。もちろん廃校もあります。学校は地域のつながりが一番持てる場所だと思うんです。そこを卒業した人たちが周りにたくさんいますし、そういうことも考えて、やはり色々なことをやっても、最後に必要なのは、地域の人たちのお隣さん同士の力、産業を考えると、やはり墨田をそういうふうになんとかしようよという気持ちを育てる、「基本」の「基」という場所があればいいんじゃないかなと思います。

司会 ありがとうございます。

区長 いかがでしょう。

区長 「墨田力」いいですね。これもちょっと頭に入れて、メッセージ性を発揮したいなというふうに思うんですが。

今、いろいろなお話ありました、食育の中で生きる、育てる、それから周りの人を考える、それからそういった場所づくり、イベントであったり、または実践できる場所をしっかりとくっていくことが必要だということですね。年末年始になると、餅つきなんかやっていますね、子供たちに餅米をふかして、それを臼でつぶして、きねでつくると、結構墨田区各町会、すごく広げてやっていただいているななんていうふうに感じますが、まさにそれは餅つきという歴史と文化の話でありまして、今現在における食育というものを、今おっしゃるような

河川敷、これは大きなイベントになると思います。それから、もう少し小さ目と言えば各公園でやってみたらどうかと、ちょっとこれは頭に入れて動いて、それが結局食育の中のいわゆる形にできたり、自分も参加、参画をして、食育を自分自身が考える、区民自身に考えていただく、そういうイベントというのは非常にいいのかなと思いますので、ぜひ今のご指摘、ご提案みたいなものを少し考えさせていただければというふうに思います。

すみだの食育は、去年の全国大会があったからということではなくて、次の新たなステージの中ですみだらしい食育というものをしっかり考えていくという中の一つにさせていただければと思います。ありがとうございます。

司会 ありがとうございます。

では、最後のご意見となります。よろしく願いいたします。

カワシマ カワシマと申します。よろしく願いいたします。

もう全ての皆さんご意見が出たので、締めくくりのような形になってしまったんですけれども、一つだけに絞って言いますと、観光のお話が結構多かったので、その中で一つ私が申し上げたいことは、今も決まってしまいました北斎館もそうなんですけれども、スカイツリーもそうでしたけれども、日本人特有の性格が出ていることで、何か物をつくるとか、一番の高さがあるとか、そういうことにこだわって、それが一番まちの発展だと思う、違うところがあると私はいつも感じている。

スカイツリーのときも、634で日本一高い電波塔、それはもう1年たったら全然消えてしまって、それは何だというわけです。そういうことも含めて、北斎館のときにも、もちろん北斎の歴史は存じ上げていますので、今までなかったのが不思議なぐらいだったんですけれども、と言って、急にスカイツリーや、あわせて外国人とか、観光客がふえたからつくろうという話になったと思うんですけれども、そういう箱物をぱっとお金を出すのは、もちろん今後50年、100年したときにはすばらしい歴史館になると思います、そういうものも。ですけれども、今じゃなくて、もしそういうのを必要であることは、きっと区民の方は皆さん感銘すると思うんですが、その収支を考えると、入ったからすぐじゃ来年から収入がふえるかという、そういうわけじゃないので、そういうことを全て区民の方に話をして、参加してもらって、少しずつ皆さんでお金を出し合って、それで5年後に完成するとか、そういうもの持ち方がききますと、随分建ったものも、区民の気持ちも違うと思うんです。葛飾北斎だって、墨田区の子供たちは北斎知っているわけじゃないですし、小学校とか、中学校でも、そういう時間を持ってないと思うんです。ですから、全然興味がないわけじゃないんですが、

区民の人がそれほどそんなことについてというのは、そういうところから来ていると思いますので、今後、そういうハコモノをつくるときに、まず一呼吸をおいて、必要である、今必要なのか、5年後に目標にして、区民の皆さんからも少しは助けてよとか、そういうふうにしてもらって、今後の政策の一環として、1番とか、最高とか余り考えないで、長い目で見て墨田区の歴史をつくっていただきたいなと思っております。

司会 ありがとうございます。

区長 ありがとうございます。

観光というと墨田区をどんどんPRして発信していくんだというところばかりに目が行って、実は今回の北斎美術館と言われるものが、区民から、どういうふうに感じているのかというようなところを的確にご指摘をいただいたというふうに思います。

平成2年ぐらいから、この館の構想があって、実は20年以上たって実現をするようなことであったり、それから、今、建てるに当たって、5億円の寄附を目標に、ちょうど去年の末で3億5,000万円まで集まったわけですがけれども、さらにあと開館までに1億5,000万円の寄附を、世界、それから他区、他市、全国各地から、何とか集めさせていただいて、これは運営や建築の補助に回せるように、何とかそういう努力も今しながらやっております。

それから、ご指摘の点で一番大事なのは、北斎美術館のコンセプト、一体何のためにそれをつくって、どういう施設なのというものを、どうしても我々行政側が区民の皆さんにまだまだ説明しきれてないというふうに思っています。ですから、これについては、正式な今後コンセプト、もうこれからだんだん開館に向けて、その辺のことも含めて、しっかり我々は皆さんにご説明をしていかなければいけないし、観客として来ていただく皆さんには、館を知っていただいて、誘客をしていかなければいけないわけですが、その前に、やっぱり墨田区が区民に対して、どういうコンセプトのもとで、どういう効果があって、そして、例えば教育面であったり、それから歴史的な人物を検証するという心の持ち方であったり、人それぞれだというふうには思うんですが、それからまちの活性化、両国の全体の中の一つであったり、いろいろなコンセプト、我々の考え方を、これはしっかりお示しをしながら、我がまちの北斎美術館なんだよ、業平、押上にはスカイツリーがある、今度両国のほうには北斎美術館があるというような形で、その施設だけというよりも、基本のところを区民の皆さんに改めてお示しをして、ご理解をいただきながら、館の運営を進めていくということが大事だというふうに思っています。大変貴重なご提案をありがとうございます。

司会 ありがとうございました。

そして、また、ご発言いただいた皆様、そして、お聞きの皆様、本当にいろいろなご意見ありがとうございました。

これで最後とさせていただきます。失礼いたします。

いろいろな意見等出ましたが、最後にお一言いかがでしょう。

区長 ちょっと私も、実は緊張してしまして、初めてだし、こんなにたくさん、それから実際やってみるといろいろなご意見をいただいたということで、やってよかったなというふうには思うんですが、なかなかうまくしゃべれなかったかなというのもちょっと反省にはあります。これは、今日1回で終わるわけではありませんし、ぜひ色々な皆さんとお話をしたいし、色々な皆さんからご意見を聞きたいので、これはもちろん、今度、再来週には本所の地域プラザのほうでやらせていただきます。こういう会を、しっかりやりながら、区政に生かしたいと改めて今日こうやって皆さんとお話をしたことが一つ。

それから、そういうご意見の中に、他区の方もいらっしゃいましたけれども、やっぱりすみだを思うお気持ちというものはすごく感じられて、なにも区民だけの地域力、墨田力ではなくて、そういう墨田区を思っていたく方のお気持ちというものもしっかり取り入れて墨田区をつくっていかねばいけないという点ももう1点ありました。

それから、何よりも、こういう多岐にわたるいろいろな主体の皆さん、地域の皆さんから意見をいただくということが、さっきから申し上げている地域力日本一のまちにつながっていくんだというふうに思うんですが、この概念というのは、ちょっとまだまだわかりにくいなと思います。じゃ地域力の定義って一体何なのと、それから、じゃ何を具体的にやるのというようなことが、まだまだこれから私も皆さんと一緒につくっていかねばいけないテーマなんです、50年後の墨田区を考えたときに、現時点で、墨田区の地域力を上げていく、日本一を目指すということが、間違いなくそれにつながっていくというふうに思いますので、これは、今後のテーマも含めて、皆さんと考えながら、この地域力の向上に向けて、ぜひこれからもお力添えを賜りたいという点を感じさせていただきました。

日曜日でお休みのところ、早朝からこんなに集まっていたことに心から感謝を申し上げまして、皆さん本当にありがとうございました。これからも、ぜひよろしく願いを申し上げたいと思います。

司会 皆様どうもありがとうございました。

区長も、どうもありがとうございました。(拍手)

ありがとうございました。

今回のタウンミーティングを、本当に墨田区としては初めての実施でございまして、企画運営委員会でもどういうテーマにしようか、どういうふうにやっていこうかということは色々悩みました。その中で、今回はこのような形をとらせていただきましたが、次回は、こんなテーマでやってほしいとか、もっとテーマを絞れよみたいなお話もあるかと思います。そのようなご意見をこの場でお聞かせいただけたらなと思うんですが、ご意見ある方いらっしゃいますか。手を挙げていただけたらと思います。

お願いいたします。

アベ 向島五丁目のアベと申します。

せっかく、八広でやるんで、もっと八広を踏まえた意見があるかなと、私は向島なもんですから、余り八広のことは恥ずかしながら存じ上げないので、そういった意見があるかなと思ったのが意外となかったのも、もしこれからタウンミーティング、墨田区内の各地で開いて、それぞれの地域性を出した、要するにテーマを絞った方向がいいかなと思います。

以上です。

司会 ありがとうございます。

そのほか、ございませんか。

ありがとうございます。

はい。

カンベ 八広から来たカンベでございます。

今日の話をお聞きしたんですけれども、防災というのが余り出てこないんです。今、墨田区で大事なことは、一つは防災力、これをどういうふうにするかということも皆さんで話し合ったらどうかと思います。

あと、福祉の点ではもう少し突っ込んで話し合ってもらいたい、次回はそう願います。

司会 なるほど、じゃテーマをある程度絞ってやっていったほうがいいというご意見ですね。

ありがとうございます。

では、そのほかご意見がございましたら、アンケート用紙がお手元にあると思います。そちらにどうぞ、こういうふうにしてほしい、こういうテーマはどうだっというのがありましたら、どうぞお書きください。よろしくお願いいたします。

それから、本日、お帰りの際に、入り口付近におきまして区の担当職員が無料耐震相談の受け付けをしております。そちらのコーナーもぜひ寄ってみてください。家具転倒防止の見本の展示などもしております。お時間のある方お立ち寄りください。

本当に長いことありがとうございました。

では、最後に、閉会の挨拶を清水委員お願いいたします。

清水 皆さん、本日はご参加いただきましてまことにありがとうございました。

実は、我々企画運営して、こんなに多くの方が参加していただけたとは思いませんでした。本当にありがとうございました。

それから、先ほどもアンケートの協力要請がありましたが、ぜひ我々の企画運営の部分もアンケートの中にお書きいただいて、次回につなげていきたいというふうに思いますので、ぜひご協力をお願いいたします。

それと、先ほどからガバナンスリーダー養成講座という名前が出てきましたが、墨田区で毎年やっております。ご意見の中に「地域の力」とか「墨田力」という話がありましたが、まさにこれに合致する養成講座だと我々も受けて感じているところでございますので、ぜひ、ご興味、関心がある方は、区民活動推進課にお問い合わせ願いたいと思います。

それでは、第1回のタウンミーティングをこれで終了いたします。ありがとうございました。(拍手)

司会 ありがとうございました。

それでは、ここで区長にご退席いただきます。

区長 どうも、皆さんありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。(拍手)

司会 ありがとうございました。

では、皆様お忘れ物のないようにどうぞお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

午前11時28分閉会